



三豊市文化祭に作品を出品

三豊市の文化祭が11月24日、25日に豊中町の市民交流センターで開催され、今年度から新たに詫中生の作品も多数出品されました。作品は、美術19点、書写20点のパネルです。



文化の秋にふさわしく詫中生が多くの実績を上げています。最近では、農業共済書写コンクールで銅賞1名と佳作1名、三豊市社会福祉協議会福祉作文コンクールで最優秀賞1名と優秀賞1名、税に関する作文で四国税理士会観音寺支部長賞、小さな親切作文コンクールで入選、交通安全意識高揚ポスターでは4名が佳作に入選しています。

スポーツ活動に文化活動に、詫中生の力が発揮されています。

薬物乱用防止教室で学んだこと

11月22日(木)に薬物乱用防止教室を実施しました。四国厚生支局麻薬取締部から松田圭郎さんを講師としてお招きし、薬物の恐ろしさや未然防止の大切さについて実話を交えたお話をいただきました。

薬物乱用のきっかけは、知り合いに誘われたり渡されたりとさまざまですが、その防止のためには、まず正しい知識を持つこと、そして、一度始めると、自分の意志ではなかなかやめられないので最初の誘いをしっかり断ることが大切です。「断る勇気を持つこと、断れないときは逃げる、誰かに相談すること」を大事にしてほしいということでした。



防止教室受講後の生徒感想より

- 最近、保健の授業で習ったばかりだったので、なおさら恐怖を感じました。1回でもやってしまったらどんな人でも絶対にやめることができなくて、そのままどん底に落ちていくことが話を聞いてよく分かりました。そんな麻薬が日本に上陸していると思うと、本当に怖いです。1回でやめられるなんてばかなことは考えないで、鋼の意志で麻薬に手を染めないことが大切だと思いました。
- 一番印象に残ったのは、危険ドラッグを使った人が起こした事故についてのお話です。それを聞いて自分の命だけでなく他人の命まで奪ってしまうことがあると知ってすごく怖かったです。
- 今日の教室を通して、薬物の恐ろしさを改めて知ることができました。保健でも薬物乱用について学んでいましたが、より深く学ぶことができました。また、私自身は薬物なんて関係ないと思っていましたが、今日の話聞いて身近でたくさん起こっているし、意外と入手しやすいことも知り、気をつけなければいけないと思いました。